

北海道開発局事業審議委員会（令和5年度第4回） 審議案件一覧【事後評価】《道路事業》

	事業名	上段：新規評価 下段：事後評価	事業の概要、目的・必要性等	事業期間		総事業費 (億円)	事業の効果の発現状況	費用便益比 全体 B/C	総費用 (億円)	総便益 (億円)	今後の事後評価の必要性 等	備考
				事業化年度	完了年度							
後～1	日高自動車道 (一般国道235号) 門別厚賀道路	再評価 (H19)	門別厚賀道路は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び国際拠点港湾苫小牧港、拠点空港新千歳空港等への物流効率化等の支援を目的とした事業。	H5	H29	950	<ul style="list-style-type: none"> 【畜産品の流通利便性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・速達性及び安定性の高い輸送ルートが確保され、畜産品の流通利便性が向上。 【農産品の流通利便性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・速達性・安定性の高い輸送ルートが確保され、農産品の流通利便性が向上したほか、農産品の出荷拡大や生産戸数・地域雇用の増進にも寄与。 【水産品の流通利便性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・物流拠点への速達性及び安定性の高い輸送ルートが確保され、水産品の流通利便性が向上。 【災害時の緊急輸送ルートの強化】 <ul style="list-style-type: none"> ・津波浸水想定区域を回避するルートが確保されるなど、災害時の緊急輸送ルートが強化。 【救急搬送の速達性・安定性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・並行する国道235号の信号交差点を回避し、苫小牧市や札幌市の高次医療施設までの所要時間が短縮され、高次医療施設への救急搬送の速達性・安定性向上に貢献。 【移住・交流人口の拡大による地域活性化】 <ul style="list-style-type: none"> ・速達性及び定時性の高い道路ネットワークが確保されることで、移住・交流人口が拡大し、地域の活性化を支援。 	1.8	863	1,583	<ul style="list-style-type: none"> 【今後の事後評価及び改善措置の必要性】 <ul style="list-style-type: none"> ・門別厚賀道路の整備により、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化、地域間交流の活性化及び国際拠点港湾苫小牧港、拠点空港新千歳空港等への物流効率化等の支援など当初の目的が達成されていることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないものとする。 ・なお、今後も利用状況の把握に努めるとともに、利用しやすい道路環境を確保するため、適切な維持管理に取り組んでいく。 	
		事後評価 (R5)	同上	H5	H30	789	<ul style="list-style-type: none"> 【交通混雑の緩和】 <ul style="list-style-type: none"> ・並行する国道38号及び国道44号の平日混雑度が減少し、主要渋滞箇所が3箇所解除。白糠町から厚岸町までの所要時間が夏期で30分（冬期は32分）短縮されるなど、交通混雑の緩和に寄与。 【道路交通の安全性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・信号交差点の多い市内を通過する交通が当該道路へ転換され、事故件数が約4割減少、「事故ゼロプラン」に基づく事故危険区間数も約6割減少するなど、並行現道における道路交通の安全性が向上。 【災害時の緊急輸送ルートの強化】 <ul style="list-style-type: none"> ・大規模な迂回の回避及び津波時の指定緊急避難場所や避難目標地点としての活用が想定されるとともに、災害により被災した地域への救援物資等の輸送の確実性向上に寄与。 【水産品の流通利便性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・厚岸町内水産加工場～苫小牧港間の所要時間が68分短縮され、約4.5t/日の増産が実現したことなど、道内各地のみならず釧路空港、釧路港、苫小牧港等から全国各地へ出荷される水産品（さんま：1.1万t/年）の流通利便性向上に寄与。 【救急搬送の安定性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・旧阿寒町から市立釧路総合病院までの所要時間が夏期で10分（冬期は10分）短縮されるなど、高次医療施設への救急搬送の安定性向上に寄与。 	1.4 (1.2) ※	1,295	1,786	<ul style="list-style-type: none"> 【同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性】 <ul style="list-style-type: none"> ・現道の交通状況や地域計画を鑑み、事業計画の修正を行った上で事業を進めることができた。 ・今後も、事業の実施においては、関係機関とも綿密に連携し、調査分析を進めて行くことが重要である。 ・また、事業評価手法の見直しの必要性はないものとする。 	
後～2	一般国道38号・44号 釧路外環状道路	再評価 (H16)	釧路外環状道路は、釧路市街における交通混雑及び交通事故の低減による道路交通の定時性、安全性の向上を目的とした、釧路西インターチェンジから釧路別保インターチェンジに至るバイパス事業。	H7	H23	604	<ul style="list-style-type: none"> 【交通混雑の緩和】 <ul style="list-style-type: none"> ・並行する国道38号及び国道44号の平日混雑度が減少し、主要渋滞箇所が3箇所解除。白糠町から厚岸町までの所要時間が夏期で30分（冬期は32分）短縮されるなど、交通混雑の緩和に寄与。 【道路交通の安全性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・信号交差点の多い市内を通過する交通が当該道路へ転換され、事故件数が約4割減少、「事故ゼロプラン」に基づく事故危険区間数も約6割減少するなど、並行現道における道路交通の安全性が向上。 【災害時の緊急輸送ルートの強化】 <ul style="list-style-type: none"> ・大規模な迂回の回避及び津波時の指定緊急避難場所や避難目標地点としての活用が想定されるとともに、災害により被災した地域への救援物資等の輸送の確実性向上に寄与。 【水産品の流通利便性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・厚岸町内水産加工場～苫小牧港間の所要時間が68分短縮され、約4.5t/日の増産が実現したことなど、道内各地のみならず釧路空港、釧路港、苫小牧港等から全国各地へ出荷される水産品（さんま：1.1万t/年）の流通利便性向上に寄与。 【救急搬送の安定性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・旧阿寒町から市立釧路総合病院までの所要時間が夏期で10分（冬期は10分）短縮されるなど、高次医療施設への救急搬送の安定性向上に寄与。 	1.9	635	1,200	<ul style="list-style-type: none"> 【今後の事後評価及び改善措置の必要性】 <ul style="list-style-type: none"> ・釧路外環状道路の整備により、釧路市街における交通混雑及び交通事故の低減による道路交通の定時性、安全性の向上など当初の目的が達成されていることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないものとする。 ・なお、今後も利用状況の把握に努めるとともに、利用しやすい道路環境を確保するため、適切な維持管理に取り組んでいく。 	
		事後評価 (R5)	同上	H7	H30	865	<ul style="list-style-type: none"> 【交通混雑の緩和】 <ul style="list-style-type: none"> ・交通渋滞緩和に伴い、並行国道を利用した富良野市街地の通過時間は整備前の33分から整備後18分と約5割減少、富良野道路を利用した場合は7分と約8割減少し夏期観光時期における交通混雑が緩和。 【道路交通の安全性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・並行国道38号の事故件数は、市街地は整備前38件から9件と約8割減少、郊外部は整備前13件から4件と約7割減少。また、整備後は死亡事故の発生はなく、致死率（死傷事故100件当たりの死者数）は低下しており、道路交通の安全性が向上。 【主要な観光地への利便性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・当該道路の整備により、夏期の観光時期に集中する富良野市街地の交通が転換し、交通渋滞の緩和により観光地間の周遊性が高まり、市内の主要な観光地への利便性が向上。 【農産品等の流通利便性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・当該道路の整備により、夏期の混雑する市街地を回避した農産品輸送が可能となり、生産者の集出荷場への輸送及び集出荷場から札幌市の市場等への輸送時間が短縮し、農産品の流通利便性が向上。 【救急搬送の安定性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・富良野市内の交通渋滞の緩和により、並行国道を利用した救急搬送の安全性や速達性が向上するとともに、富良野道路の利用により、救急搬送の安定性が向上。 【都市間バスの利便性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年7月には、利用者の要望が多かった旭川空港に停留所を新設。当該道路の利用により運行所要時間増を伴わずに新たに旭川空港への立ち寄りが可能となったほか、定時性が確保されたことで十勝方面から富良野美瑛観光圏や旭川空港への都市間バスの利便性が向上。 	1.2 (1.3) ※	1,564	1,860	<ul style="list-style-type: none"> 【同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性】 <ul style="list-style-type: none"> ・釧路別保ICの接続位置の変更等により事業費及び事業期間が増加しているものの、道路利用者の利便性向上を図ることができた。 ・今後も、事業の実施においては、関係機関とも綿密に連携し進めていくことが重要である。 ・また、事業評価手法の見直しの必要性はないものとする。 	
後～3	旭川十勝道路 (一般国道38号) 富良野道路	再評価 (H21)	富良野道路は、高速ネットワークの拡充による上川圏と十勝圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び物流の効率化等の支援をするとともに、富良野市街における交通混雑の低減を図り、道路交通の定時性、安全性の向上を目的とした事業。	H14	H25	284	<ul style="list-style-type: none"> 【交通混雑の緩和】 <ul style="list-style-type: none"> ・交通渋滞緩和に伴い、並行国道を利用した富良野市街地の通過時間は整備前の33分から整備後18分と約5割減少、富良野道路を利用した場合は7分と約8割減少し夏期観光時期における交通混雑が緩和。 【道路交通の安全性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・並行国道38号の事故件数は、市街地は整備前38件から9件と約8割減少、郊外部は整備前13件から4件と約7割減少。また、整備後は死亡事故の発生はなく、致死率（死傷事故100件当たりの死者数）は低下しており、道路交通の安全性が向上。 【主要な観光地への利便性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・当該道路の整備により、夏期の観光時期に集中する富良野市街地の交通が転換し、交通渋滞の緩和により観光地間の周遊性が高まり、市内の主要な観光地への利便性が向上。 【農産品等の流通利便性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・当該道路の整備により、夏期の混雑する市街地を回避した農産品輸送が可能となり、生産者の集出荷場への輸送及び集出荷場から札幌市の市場等への輸送時間が短縮し、農産品の流通利便性が向上。 【救急搬送の安定性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・富良野市内の交通渋滞の緩和により、並行国道を利用した救急搬送の安全性や速達性が向上するとともに、富良野道路の利用により、救急搬送の安定性が向上。 【都市間バスの利便性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年7月には、利用者の要望が多かった旭川空港に停留所を新設。当該道路の利用により運行所要時間増を伴わずに新たに旭川空港への立ち寄りが可能となったほか、定時性が確保されたことで十勝方面から富良野美瑛観光圏や旭川空港への都市間バスの利便性が向上。 	1.6	281	445	<ul style="list-style-type: none"> 【今後の事後評価及び改善措置の必要性】 <ul style="list-style-type: none"> ・富良野道路の整備により、交通混雑の緩和や道路交通の定時性の向上など当初の目的が達成されていることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないものとする。 ・なお、今後も利用状況の把握に努めるとともに、利用しやすい道路環境を確保するため、適切な維持管理に取り組んでいく。 	
		事後評価 (R5)	同上	H14	H30	437	<ul style="list-style-type: none"> 【交通混雑の緩和】 <ul style="list-style-type: none"> ・交通渋滞緩和に伴い、並行国道を利用した富良野市街地の通過時間は整備前の33分から整備後18分と約5割減少、富良野道路を利用した場合は7分と約8割減少し夏期観光時期における交通混雑が緩和。 【道路交通の安全性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・並行国道38号の事故件数は、市街地は整備前38件から9件と約8割減少、郊外部は整備前13件から4件と約7割減少。また、整備後は死亡事故の発生はなく、致死率（死傷事故100件当たりの死者数）は低下しており、道路交通の安全性が向上。 【主要な観光地への利便性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・当該道路の整備により、夏期の観光時期に集中する富良野市街地の交通が転換し、交通渋滞の緩和により観光地間の周遊性が高まり、市内の主要な観光地への利便性が向上。 【農産品等の流通利便性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・当該道路の整備により、夏期の混雑する市街地を回避した農産品輸送が可能となり、生産者の集出荷場への輸送及び集出荷場から札幌市の市場等への輸送時間が短縮し、農産品の流通利便性が向上。 【救急搬送の安定性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・富良野市内の交通渋滞の緩和により、並行国道を利用した救急搬送の安全性や速達性が向上するとともに、富良野道路の利用により、救急搬送の安定性が向上。 【都市間バスの利便性向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年7月には、利用者の要望が多かった旭川空港に停留所を新設。当該道路の利用により運行所要時間増を伴わずに新たに旭川空港への立ち寄りが可能となったほか、定時性が確保されたことで十勝方面から富良野美瑛観光圏や旭川空港への都市間バスの利便性が向上。 	1.02	680	693	<ul style="list-style-type: none"> 【同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性】 <ul style="list-style-type: none"> ・現道の交通・渋滞状況の調査分析や地域計画を鑑み、事業計画の修正を行った上で事業を進めることができた。 ・今後も、事業の実施においては、関係機関とも綿密に連携し、調査分析を進めて行くことが重要である。 ・また、事業評価手法の見直しの必要性はないものとする。 	

後～4	釧路中標津道路 (一般国道272号) 上別保道路	新規評価 (H18)	釧路中標津道路上別保道路は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化および物流の効率化等を支援するとともに、地吹雪による視程障害、交通事故の低減を図り、道路交通の定時性、安全性の向上を目的とした高規格道路。	H19	H26	53	<p>【道路交通の安全性向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 急カーブ（11箇所）や急勾配（3箇所）の線形不良区間が解消されたほか、死傷事故件数が約5割減少するなど、道路交通の安全性向上に寄与。 【地吹雪に起因する交通障害の緩和】 既存林を活用した当該道路の整備により、地吹雪等を起因とした通行止め事例は発生しておらず、当該道路における地吹雪に起因する交通障害の解消に寄与。 【水産品の流通利便性向上】 安定性の高い輸送ルートが確保され、釧路市内の水産加工場や苫小牧港、函館水産加工場等から道外へ出荷される水産品（ほたて貝・さけ：約3.8万t/年）の流通利便性向上に寄与。 【生乳の流通利便性向上】 確実性や安定性の高い輸送ルートが確保され、釧路港や苫小牧港等から道外へ出荷される生乳（6.8万t/年）や釧路港から後背圏へ供給される飼料の流通利便性向上に寄与。 【救急搬送の安定性向上】 安定性の高い搬送ルートが確保され、高次医療施設までの救急搬送の安定性向上に寄与。 【災害時の輸送ルート強化】 帯広・道央方面や中標津町など北見方面からの救援物資等の輸送の確実性向上に寄与。 	2.3	39	91	<p>【今後の事後評価及び改善措置の必要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上別保道路の整備により、近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化および物流の効率化など当初の目的が達成されていることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないものと考ええる。 なお、今後も利用状況の把握に努めるとともに、利用しやすい道路環境を確保するため、適切な維持管理に取り組んでいく。
		事後評価 (R5)	同上	H19	H30	53	<p>【道路交通の安全性向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 急カーブ（11箇所）や急勾配（3箇所）の線形不良区間が解消されたほか、死傷事故件数が約5割減少するなど、道路交通の安全性向上に寄与。 【地吹雪に起因する交通障害の緩和】 既存林を活用した当該道路の整備により、地吹雪等を起因とした通行止め事例は発生しておらず、当該道路における地吹雪に起因する交通障害の解消に寄与。 【水産品の流通利便性向上】 安定性の高い輸送ルートが確保され、釧路市内の水産加工場や苫小牧港、函館水産加工場等から道外へ出荷される水産品（ほたて貝・さけ：約3.8万t/年）の流通利便性向上に寄与。 【生乳の流通利便性向上】 確実性や安定性の高い輸送ルートが確保され、釧路港や苫小牧港等から道外へ出荷される生乳（6.8万t/年）や釧路港から後背圏へ供給される飼料の流通利便性向上に寄与。 【救急搬送の安定性向上】 安定性の高い搬送ルートが確保され、高次医療施設までの救急搬送の安定性向上に寄与。 【災害時の輸送ルート強化】 帯広・道央方面や中標津町など北見方面からの救援物資等の輸送の確実性向上に寄与。 	1.8	85	155	<p>【同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現道の交通・渋滞状況の調査分析や地域計画を鑑み、事業計画の修正を行った上で事業を進めることができた。 今後も、事業の実施においては、関係機関とも綿密に連携し、調査分析を進めていくことが重要である。 また、事業評価手法の見直しの必要性はないものと考ええる。
後～5	一般国道336号 襟広防災 (防災面の効果が特に大きい事業)	再評価 (H22)	国道336号は、浦河町を起点とし、釧路市に至る延長約150kmの幹線道路。このうち襟広防災は、落石、土砂崩落、波浪、雪崩等の通行規制区間、特殊通行規制区間及び危険箇所の解消を図り、道路の安全な通行の確保を目的とした、えりも町字庶野から広尾町ツチウシに至る事業。	H2	H27	792	<p>【道路交通の安全性向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災上の要対策箇所34箇所の対策が完了し、通行規制区間の規制基準が緩和され、通行規制時間や通行規制回数が大きく減少したことで道路交通の安全性が向上。 【日常生活の安全性や利便性の向上】 事業完了に伴い、えりも町黒地区では通行止めによる孤立化回数が約9減少し、日常生活の安全性や利便性が向上。 【救急搬送の安定性向上】 事業完了により、えりも町から帯広市の高次医療施設までの救急搬送の安定性が向上。 【地域医療の安定性向上】 当該事業区間の整備により、安全性や確実性の高い通院ルートが確保され、地域医療の安定性が向上。 【水産品の流通利便性向上】 事業完了に伴い、通行規制が緩和されたことで、漁業経営の安定性や水産品の流通利便性が向上。 【バス交通の利便性向上】 事業完了に伴う、通行止め回数の減少などにより、安全性や確実性の高いバスルートが確保され、バス交通の利便性が向上。 	—	—	—	<p>【今後の事後評価及び改善措置の必要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 襟広防災の整備により、落石、土砂崩落、波浪、雪崩等の通行規制区間、特殊通行規制区間及び危険箇所の解消、道路の安全な通行の確保など当初の目的が達成されていることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないものと考ええる。 なお、今後も利用状況の把握に努めるとともに、利用しやすい道路環境を確保するため、適切な維持管理に取り組んでいく。
		事後評価 (R5)	同上	H2	H30	840	<p>【道路交通の安全性向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災上の要対策箇所34箇所の対策が完了し、通行規制区間の規制基準が緩和され、通行規制時間や通行規制回数が大きく減少したことで道路交通の安全性が向上。 【日常生活の安全性や利便性の向上】 事業完了に伴い、えりも町黒地区では通行止めによる孤立化回数が約9減少し、日常生活の安全性や利便性が向上。 【救急搬送の安定性向上】 事業完了により、えりも町から帯広市の高次医療施設までの救急搬送の安定性が向上。 【地域医療の安定性向上】 当該事業区間の整備により、安全性や確実性の高い通院ルートが確保され、地域医療の安定性が向上。 【水産品の流通利便性向上】 事業完了に伴い、通行規制が緩和されたことで、漁業経営の安定性や水産品の流通利便性が向上。 【バス交通の利便性向上】 事業完了に伴う、通行止め回数の減少などにより、安全性や確実性の高いバスルートが確保され、バス交通の利便性が向上。 	—	—	—	<p>【同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 落石等による危険箇所や地域の道路利用実態を鑑み、重点的に整備が必要となる箇所を把握し事業を進めることができた。 今後も、事業の実施においては、関係機関とも綿密に連携し、調査分析を進めていくことが重要である。 また、事業評価手法の見直しの必要性はないものと考ええる。

※（ ）内の数値は一体評価結果